

# 教職員の情報共有に特化したタブレット用シェアボードシステムの運用

東みよし町立足代小学校 教頭 中川 斉史  
 キーワード：タブレット、校務支援、情報共有、働き方改革

## 実践の概要

本実践は、教職員の情報共有に特化した仕組みをつくることにより、担任や各担当しか知らない情報を減らし、組織としての対応力を高めることを目的としている。タブレットを使うことで、職員室内の共用黒板に匹敵する利便性を実現し、この仕組みが働き方を変えていった。

## 1. 目的・目標

校内では、情報がシェアできていないために起こる不便なことがとても多い。そのため何度も職員室と教室を往復したり、職員室から担当が伝えに回ったりと、時間と労力を消費している。これは、決して効率の良い仕事の仕方とは言えない。

学校内で教職員がどのように情報を共有しているかという、ほとんどの学校では、職員室にある日々の連絡事項などを書く黒板を利用しているのが現状であろう。しかしこれらの黒板は、職員室内で絶えず情報が更新されるため、職朝などで打ち合わせをしたとしても、それ以後の更新された情報の確認は、職員室に戻り黒板を確認する以外にない。多くの担任は一度教室に行ってしまう、頻りに職員室に戻ることはないため、情報漏れもしばしば起こり、「聞いていない」「知らなかった」「いつの間に？」といった、心理的負担を引き起こす。

そこで、これらの状況を解消すべく、タブレットを使った情報共有システムを運用し、校内における「情報共有」の重要性を検証した。

### (1) システム

もともとは、授業支援システムとして存在している「MetaMoJi Classroom」(MetaMoJi Corporation) を利用し、1人の書き込みがリアルタイムに全員に共有され、相互に書き込みができる機能を情報共有の仕組みとして利用した。

### (2) 運用方法

校内では毎月の行事予定のための表データが存在している。そのデータを生かしながら、毎日の予定データを生成する。これらはPDFで作成され、一日分のシートとしてページに追加される。

これらの表示や書き込みのためのタブレットは全ての教室はもちろん、校長室や保健室、併設の幼稚園などにも設置し、職員室には大型ディスプレイにその内容を表示させるようにした。

## 2. 実践内容

### (1) 日常の運用

図1のように、1日分の情報が、テキスト、写真、図版、手書きマーキングなどにより随時追加されていく。それらの情報は、書き込みがなされた時点でリアルタイムに更新される。職員室で、急に変更になった情報が書き込まれたり、記事を赤ペンで追記したり、変更点を二重線で消したりと、黒板と同じように手書きした内容が、即座に更新される。ブラウザベースのグループウェアとの違いは特にここである。

もちろん、単に見るだけでなく、それぞれの場所から書き込むことができるため、急いで全校に共有したい情報を教室にしながら発信でき、日々多くの情報が相互にやりとりされている。

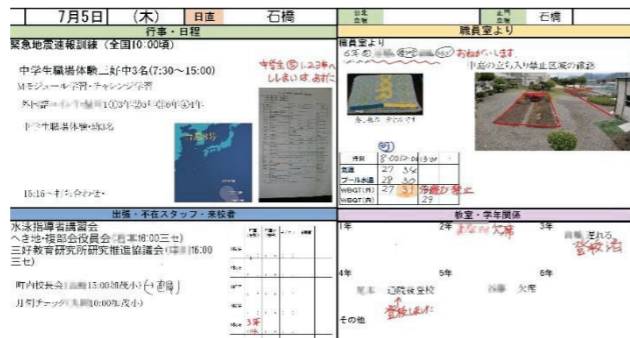


図1 教職員が日々利用しているシェアボード

### (2) 保護者受付の情報共有

この仕組みを、参観日や個人懇談などの受付に利用することで、担任や、保護者の不安を取り除くことができた。参観日の受付の流れは次のようになる。図2のように、受付でタブレットに書かれた、出席を表す手書きの○印が、校内の全てのタブレットに情報共有され、職員室での状況把握はもちろん、各教室の担任は、保護者の

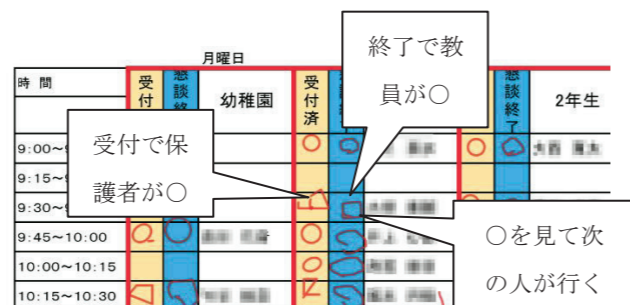


図2 個人懇談受付と懇談終了マーキング

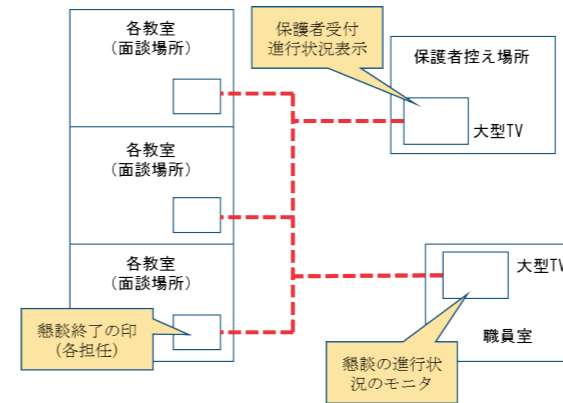


図3 リアルタイムに懇談状況が分かる

集まり具合がリアルタイムに分かる。また、個人懇談では、図3のように、懇談終了の印を担当がタブレットに書くため、控え場所にいる保護者に、前の方の終了がリアルタイムに伝わる。このことで、保護者が、「開始予定時刻が来たけど、前の方が終わったかどうか不安だ」というようなこともなく、安心して我が子の懇談を受けることができたという好評であった。

### (3) 緊急時の登下校把握

また、気象の関係で始業時刻を1時間遅らせた際には、図4のように、全てのクラスの児童の名簿に、登校したら担任が○印を書く。そして、それらを職員室でリアルタイムに確認したり、兄弟のクラスで確認したりして、保護者からの電話対応や、兄弟の登校状況に違いがないかなど、児童の安全面での対応力の強化につながった。

地区	1年	2年	3年	4年	5年
地区A	○	○	○	○	○
地区B	○	○	○	○	○
地区C	○	○	○	○	○
地区D	○	○	○	○	○
地区E	○	○	○	○	○

図4 始業時刻遅延時や集団下校等の確認のための画面

### (4) 長期休業中の運用

さらに、今年度の夏休みには、これらのシステムの拡張として、スマホを利用した特別バージョンを運用した。夏休みの間には、急な出張が入ったり、家族の都合で年休が変更されたりして、勤務区分が様々に変更されることが多い。そのため、当初の予定表通りで打ち合わせや相談をするつもりでいたら、急に年休を取り、休んでいた等ということもしばしば起こる。

また、校舎の不具合や検査などが急に予定されて、利用しようと思っていた場所が使えなくなっていたり、通行方法が変更になっていたりと、戸惑うこともある。これは、夏季休業中ならではのことで、情報共有が急にしづらくなるものである。

そこで、日々校内で利用しているシェアボードの夏休みバージョンとして、図5のように、スマホでも利用できるシステムを用意した。そして、勤務区分の変更や学校の様子の情報共有を図り、教職員がどのように利用したかについて調べた。すると、圧倒的に多かったのが、「年休が取りやすくなった」「確認のために学校に電話をすることがなくなった」「学校の様子が分かるので、安心する」というものであった。



図5 夏休み用のシステム画面

## 3. 成果

このシステムを運用してから、担任しか知らない情報を減らすことができ、教職員全体で子供の対応にあたるようになってきた。また、スマホのカメラを利用することができるため、言葉で説明しにくい場所の伝達や、紙資料をそのまま撮影して利用するなどの、高い利便性が発揮された。ペンによる丸囲みなどで、情報を強調する行動も多く見られた。

そして、スマホを使った夏休みのバージョンでは、この夏休み中の教職員の年休消化率が、前年比106%となり、昨年に比べ微増した。これは、利用者の感想にあったように、年休が取りやすいという心理的安心感につながる仕組みであったといえる。また、SNSと同じようなコミュニティとなるため、教職員間の自己開示による同僚性がさらに深まり、より強固な組織へとつながることができたと実感している。

つまり、教職員がチームとして同僚性を発揮するためにも、このようなタブレット用シェアボードシステムは、重要な仕組みである。そのおかげで、どの教職員も心地よい所属意識の中で、仕事ができている。仕組み自体はシンプルなので、どの学校でも利用できる仕組みであると思う。